

令和元年度化学研究所若手研究者国際短期派遣事業研究滞在記

有機元素化学研究領域 岩井 健人

2019年10月1日から同年12月26日の期間、ドイツのボン大学に研究滞在させていただきました。滞在地であるボンはドイツ西部にあるライン川沿いの都市であり、モーツァルトの出身地としても有名です。ボン大学では、リンの化学において世界的に著名な Streubel 先生の主導する研究室に参入させていただきました。ここ数年、私が所属する時任研究室は Streubel 研究室と JSPS 二国間交流事業の共同研究を行っていたため、先の交換留学で既に顔見知りの学生も多く、スムーズに研究を始めることができました。



研究室でのワーキングタイムは基本的に9時から18時までであり初めは短いように感じましたが、試料の測定は全て技官さんに依頼することになっているため、思ったより多くの時間を実験操作に割くことができました。このように実験と測定を完全分業体制で効率よく研究を進めていくのも良い体系だなと思いました。研究室では一人につき一つのドラフトと真空/アルゴンラインが割り当てられており、シュレンク管などの高価なガラス器具も多くを利用できるため、本場のシュレンクテクニックやアルゴン気流下での低温カラムクロマトグラフィーなど様々な操作を学ぶことができました。

また日々の研究室メンバーとの会話から、政治や歴史、宗教に対する意識の高さが窺え、自らの国際意識を見つめ直す機会にもなりました。そして、自分がいかに恵まれた環境で研究できているのかということに気付かされた3ヶ月間でした。最後にこのような貴重な機会を与えて下さいました化学研究所並びにボン大学の関係者各位に感謝申し上げます。



ライン川沿いの山一面に広がる葡萄畑



ドイツ料理店に連れて行ってもらった時の写真